

玉乃五龍 いづまりごりゅう 舊岩國藩儒、司法官。文政八年七月、一周防國岩國生れ、明治十九年八月八日歿（二八五―六六）。舊姓桂、諱世履、字公素、通稱辰次郎、多門、泰吉郎、東平。藩儒玉乃九華の後嗣。九華、二宮錦水の師事、おた梁川星巖、山田方谷、齋藤拙堂等と學ぶ。うち藩費養老館教授、傍ら家塾を開いた。慶應二年六月の幕長戦は農兵を率ゐて藝州口の轉戦、次で藩政にも當る。明治元年藩公議人として上京、司法官となりて司法大輔兼元老院議官に累進。治罪法、陸軍刑法、民法の審査御纂に携はつた。高等法院裁判長から再度の大審院長在職中に自裁。生前へ今大岡への稱があつた。

著書 『五龍文詩』全二冊（明治二十二年七月玉乃光子刊）等。三島毅（中洲）撰 『五龍玉乃先生碑文』（明治二十二年八月、無刊記）といふ數丁の冊子がある。

